

1 学校教育目標

- 自ら学び目標をもって努力しよう
- 互いに尊重し助け合おう
- 困難に耐え心と体を鍛えよう

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・確かな学力を身に付けさせる学校 ・心身ともに健やかな生徒を育てる学校 ・生徒、保護者、地域から信頼される学校
○児童・生徒像	・目標をもち、自ら進んで学習に取り組む生徒 ・礼儀や思いやりを大切にし、規律ある行動ができる生徒 ・心身ともに健康で、何事にも一生懸命に取り組む生徒
○教師像	・授業改善に向け、日々研究・実践に努める教師 ・生徒一人ひとりを理解し、生徒の健全育成に努める教師 ・教育公務員としての自覚と誇りをもって職務に励む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○学校について

- 〔よさ〕落ち着いた雰囲気の中で日々の教育活動が行われている。
- 〔課題〕新学習指導要領の理念をさらに具現化する教育活動を推進する。

○生徒について

- 〔よさ〕素直に指導を受け入れ、成長しようとする生徒が多い。
- 〔課題〕学習や諸活動において、より高い目標をもって挑戦する姿勢を養う。

○教師について

- 〔よさ〕授業改善に向け努力するとともに、学校全体で協力して課題解決しようとする集団である。
- 〔課題〕教育課題に対し、組織的な解決をさらに推進する。

【前年度の成果と課題】

【成果】○「授業がわかる」「勉強が好きだ」「学校に行くのが楽しい」と感じている生徒が増加した。

- 保護者・地域と連携し、教育活動に取り組んでいる。
- 不登校生徒について、関係諸機関との連携を推進することができた。

【課題】○生徒が自らの課題を見つけ、自主的に学習に取り組もうとする姿勢を身に付けさせる。

- 新学習指導要領を見据えた授業改善を進める。

○基本的なコミュニケーション能力を向上させ、人間関係のトラブルを防止する。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	生徒の健全育成	○	○	○	○	○
3	関係小学校や家庭・地域との連携	○	○	○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－１		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
自ら考え、学ぶ生徒の育成		年度末到達度確認テスト平均 正答率 65% 令和３年度区調査通過率 65%	年度末到達度確認テスト平均 正答率 60.8%	・年度末到達度確認テストにおいて平均正答率は 60.8%で目標まで 4.2%であった。定着が十分でない部分を年度内に補う。 ・学習の定着状況と具体的な取組は６（１）を参照	○

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続 (改善)	「勉強が 好き」増加 作戦	全教科	通年	教員の授業力を向上させ、勉強が好きと言える生徒の育成を目指す。 【取組方法】・足立スタンダードに基づいた授業の実践 ・考える時間、話し合う時間、発表する時間の設定による深い学びを目指す ・校内授業研究を全教員が1回以上実施 ・教科指導専門員等の活用、OJT組織の活性化	・生徒アンケート ・振り返りシート ・単元テスト等による理解度の確認	・「授業が分かる」85%以上 ・「授業が楽しい」80%以上 ・「勉強が好きだ」80%以上 ・「授業の最後に振り返りをしているか」70%以上	生徒学習アンケート結果と前年度比 ・「授業が分かる」87.3% 2.7%増加 ・「授業が楽しい」79.7% 5.1%増加 ・「勉強が好きだ」は5教科の勉強が好きだ生徒の平均は67.9%であるが、「授業が分かる」「授業が楽しい」等の項目から総合的に見ると数値はこれよりも高くなると考える。 ・「授業の最後に振り返りをしているか」68.2% 4.2%増加	・生徒アンケートによる結果では、達成目標までわずかに届かなかった項目が4項目中3項目であるが、各項目とも前年度より肯定的回答が増加している。 ・この他に「勉強は大切だ」と感じている生徒は93.6%でH30年度から約50%増加している。 ・「勉強が好き」な生徒を育てるために学ぶ楽しさを実感させることが課題である。	○
2 継続 (改善)	家庭学習 の充実	全生徒	通年	授業での振り返りをもとにした主体的な家庭学習の定着を目指す 【取組の方法】・「家庭学習ガイドブック」の活用による家庭学習のやり方の指導、保護者会等での家庭への啓発 ・定期考査前の「学習計画表」の作成	・生徒アンケート ・自主学習ノート ・デイリーライフ（生活記録）での確認	・「家庭学習をするときの勉強内容、方法が分かる」70%以上 ・家庭学習1日1時間以上50%以上 ・提出物90%以上	生徒学習アンケート結果と前年度比 ・「家庭学習をするときの勉強内容、方法がわかる」66.9% 3.7%増加 ・「家庭学習1日1時間以上」57.2% 12.5%増加 ・「宿題をきちんとやり遂げている」88.6% 1.8%減少	・自主学習ノートや課題の工夫により家庭学習に1時間以上取り組む姿勢が定着しつつある。 ・家庭学習の内容や方法を主体的に考えられる生徒が増えてきているが、目標達成にはあと一歩である。	○

3 継続 (改善)	放 課 後 補 充 教室	全生徒、 各教科の つまずきの ある生徒 及び希望 生徒	後 期 よ り 週 3 回	未習熟な学習内容の解消 【取組の方法】・必要な学 習を行う自学自習 ・個別指導によるつまずきの 解消	・区学力調査 を活用した到 達度確認テス ト ・定期テスト	・年度末に行う 到達度確認テ ストで対象生 徒の正答率ア ップ	・後期より週 3 回の 放課後補充教室を計 画的かつ円滑に行え ている。	全生徒が放課後に主 体的に学習する時間 を設けたことで自学 自習する姿勢が身に つきつつある。 ・つまずきのある生 徒への個別指導も計 画的に行えている。	◎
4 新規	I C T の 活用	国語、社 会、数学、 理科、英 語、体育 の教員	通年	わかりやすい授業を行う ために活用	授業観察	・各教員が月 1 回以上は活用	・教科の特性により 活用頻度は異なる が、よく活用でき ている。	・I C T の活用が効 果的な場面につい て、さらに研修を進 める。	◎
5 継続 (改善)	朝学習 朝読書	全生徒	通年	1 日の落ち着いたスタート 【取組の方法】・基礎的な 学習内容のプリント ・読書 ・朝学習、朝読書の実施時 期は年間計画に基づく	・朝学習は回 収し確認 ・朝読書には 担任も一緒に 取り組む	・全員が朝学 習、朝読書に取 り組む。	・生徒自身が何をす べきかをよく理解 し、朝学習や朝読書 に取り組むことで、 1 日の落ち着いたス タートができている。	・学習内容を各教科 で作成するようにし たことで効果的な取 り組みになっている。	◎

重点的な取組事項－2		生徒の健全育成			
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
	生徒が秩序と主体性をもって行動できる 学校づくり	生徒アンケートの関連項目で肯定的 回答 80%以上	関連項目での肯定的回答は 80%以 上である。	・秩序ある学校生活は 十分に達成できている。 ・主体性をもって行動 する姿勢は身につく つつあるが、学校行事が 実施できなかったため、 十分に伸ばす場面を つくれなかったのが 残念である。	◎

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣の徹底	登校時間、チャイム着席、あいさつ等を守れる落ち着いた学校の実現	生活委員によるあいさつ運動やチャイム着席の点検をとおして時間を守った生活ができるようにさせる	・特別な理由がない限り、登校時間、チャイム着席に遅れる生徒はいない。 ・学校再開後、きちんと声を出してあいさつすることに粘り強く取り組んだ結果、ほとんどの生徒が気持ちのよいあいさつができるようになった。	・生活委員等の生徒の活動とともに、チャイムの鳴る前に教員が教室で授業の準備をしている姿勢が成果に大きく貢献している。 ・遅刻ゼロ、チャイム着席、あいさつ等の基本的習慣を当然のこととして継続したい。	◎
主体的に考え、行動できる生徒の育成	生徒アンケートにおいて、生徒の主体性、達成感に関する項目 80% 以上	学級、学年など自らが所属する集団をより良い集団にするために、生徒会活動等を活性化	・生徒アンケートでは「今の学級をより良い学級にしたい」82.2%、「自分の役割を考え、協力して行動しようとしている」80.9%である。	・自らの所属する集団をより良いものにしようとする姿勢が育めている。 ・日常生活の中で、自分の思いや考えをさらに積極的に話せる姿勢とともに、論理的に伝える力を身に付けさせることが課題である。	◎
道徳教育の推進	各学年で検討した共通の指導案での道徳授業を年2回実施	道徳教育推進教師を中心とした組織体制をもとに、各学年で指導案を検討し、「考え、議論する道徳」をめざす	・計画通りに各学年で共通の指導案での道徳授業を実施した。 ・毎時間、生徒が学習シートに記入することによって、考えを深めさせた。 ・議論する場面は、できる範囲で意見交換の場面を設けた。	・教科書を活用することで各項目を偏りなく学習させることができた。 ・各学年、各学級で考える場面、意見交換する場面を工夫できている。	◎
いじめ、不登校への対策	いじめの根絶を目指すと共に、関係諸機関との連携を図ることで不登校生徒の支援を行う	・SNS 学校ルール of 徹底 ・構成的グループエンカウターの活用 ・特別支援委員会の充実、関係諸機関との連携 ・アンケート、QU の活用	・年3回のいじめアンケート、SNS の使い方等をはじめとして必要な事案には迅速に対応した。 ・特別支援委員会での組織的な対応を充実させることで関係諸機関との連携が進んだ。	・不登校生徒には必要に応じた支援を組織的に行っており、関係諸機関との連携は進んでいるが、成果はまだ十分ではない。	○

重点的な取組事項－３		関係小学校や家庭・地域との連携			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域から信頼される学校づくり		学校評価アンケートにおける関連項目の満足度 80%以上	関連項目での肯定的回答は80%以上である。	・学校の状況を実際にご覧いただく機会が少ない中でも、保護者ときめ細かい連絡をとることによって高い評価をいただいたと考える。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
家庭との連携	学校評価アンケート関連項目で肯定的回答 80%以上	月 1 回発行する学校だよりやホームページによる学校の情報発信、保護者とのきめ細かい連絡をとおして、保護者と教員の信頼関係を強固にする	学校評価アンケート結果より ・「学校は経営方針や教育活動を保護者会、学校・学年便り等で伝えられている」95.9% ・「保護者は子どものことで教職員に気軽に相談できる」82.7%	・学校行事や保護者会を実施できない状況の中でも、三者面談をはじめとして保護者とのきめ細かい連絡をとっている。 ・保護者から遠慮なく相談ができる体制づくりをさらに進める。	◎
地域との連携、協力	学校評価アンケート関連項目で肯定的回答 80%以上	地域の方への情報の発信、学校公開をとおして、教育活動への理解を深めていただく。	学校評価アンケート結果より ・「学校は保護者・地域と連携し、教育活動に取り組んでいる」88.2%	・地域でのボランティア活動ができなかったため、地域と連携して子どもを育てる場面はつくれなかったが、情報発信、学校公開をとおして理解を図った。	◎

6 まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１ 学力向上アクションプラン

【成果】年度末到達度確認テストにおいて平均正答率は、国語 63.1%、数学 65.5%、英語 53.7%、3科平均は成果目標まであと 4.2%であった。生徒の学習に関するアンケートで「学校の授業が分かる」に対し、肯定的回答は 87.3%であり、昨年度に比べ 2.7%増加、「学校の授業は楽しい」は 79.7%で、5.1%増加している。また「勉強は大切だ」と感じている生徒は 93.6%と大変に高く、H30 年度から約 50%増加している。これは以下の理由によると考える。

○挨拶やチャイム着席を初めとした学習規律の徹底、教室環境の整備、朝学習の改善により、落ち着いて学習できる環境を整えた。

○校内研究授業の推進、国語・数学・英語の教科指導専門員による指導、英語科の教科推進校の取組、管理職による授業観察をとおして、各教員が新学習指導要領に沿った指導と学力観について理解を深め、生徒に得た知識・技能を使って考えさせる場面を設定し、授業改善を進めた。

【課題及び解決の方向性】基礎的な学力の定着が進んでいることは区学力調査の結果の推移からわかるが、まだ定着が十分でない分野がある。また、「家庭学習をするときの勉強内容、方法が分かる」66.9%、「家庭学習 1 日 1 時間以上」57.2%は、昨年度より増加しているが、さらに自学自習の姿勢を身に付けさせたい。「問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている」45.8%、「わからないことは、そのままにせず、わかるまで努力している」69.9%から、自らの能力をさらに伸ばそうとする意欲をもたせることが必要である。このことを解決するために以下のことに取り組む。

○今年度、学習したことは、今年度内の十分な定着を目指し、授業や放課後補充教室で復習をさせる。

○毎時の振り返りから導き出される「理解が十分でなかったこと」を家庭学習で取り組むよう、「家庭学習ガイドブック」を活用して指導する。ねらい、振り返り、家庭学習が一つのまとまった学習活動であることを、教員も生徒も理解し、取り組めるようにする。

○学習の見通しをもたせることや、分かる喜びを味わわせることをとおして、学ぶことに興味・関心をもたせ、自らの学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む力を育む。

重点的な取組事項－２ 生徒の健全育成

【成果】「生徒が秩序と主体性をもって行動できる学校づくり」を目指してきた結果、コロナ禍で学校行事等ができない状況にも関わらず、「学校に行くのが楽しい」83.1%、「今の学級をより良い学級にしたい」82.2%、「自分の役割を考え、協力して行動しようとしている」80.9%のように、自らの所属する集団をより良い集団にするために考え、行動しようとする生徒が大多数であると言える。これは以下の理由によると考える。

○基本的な生活習慣が確立し、落ち着いた学校生活ができています。

○生徒会活動や道徳授業の充実をとおして、自らの所属する集団をより良くしていこうとする考え方が根付いてきた。

○授業や学級活動で、お互いを認め、励ます場を設定している。

○いじめ、不登校や特別な支援を必要とする生徒について、週 1 回行っている校内委員会で、各生徒への対応を検討することで、担任の経験等に関わりなく、組織的に指導することができている。さらに関係諸機関との連携も SSW を活用することで円滑にできている。

【課題及び解決の方向性】「日常生活の中で、自分の思いや考えを積極的に話している」69.9%から、人間関係を上手につくり、思いを伝えていく力をさらに付けさせる必要がある。年度当初の臨時休業の影響があるためか、不登校生徒が増加している。また体調不良を訴える生徒も少なくない。このことを解決するために以下のことに取り組む。

○生徒自らが、より良い学校生活のために必要とすることを考える場を設定し、考えたことを積極的かつ論理的に伝えるスキルを身に付けさせる。

○担任と保護者とのきめ細かい連携を基本に、SC や教育相談センター、登校サポーター等、関係諸機関との連携をさらに推進する。

○学級や学校への不適応傾向のある生徒をいち早く発見し、課題解決するために、学年の教員だけでなく、特別支援教室担任や SC による観察を推進する。

重点的な取組事項－３ 関係小学校や家庭・地域との連携

【成果】保護者・地域から信頼される学校づくりを目指してきた結果、保護者、地域の方による学校評価アンケートでは13項目すべてで80%以上、6項目で90%以上の高い評価をいただいた。制限のある教育活動であったにも関わらず、ご理解とご協力をいただけたと考える。これは以下の理由によると考える。

○学校だより、学年だより、保健だよりやホームページ等をとおして、学校の情報を細かく発信したことにより、学校がどのような教育方針で教育活動を行っているのか、生徒がどのような活動をしているのかを理解していただいた。

○年2回の三者面談の実施により、各家庭との課題の共有ができています。さらに担任を中心とした学年の教員が必要に応じて家庭と密に連絡をとることで、保護者と学校が協力して生徒の健全育成に取り組めた。

【課題及び解決の方向性】小中連携の活動は中止としたため、今まで積み上げてきた研修が中断されている。本校は母体となる2校の小学校からの入学生が90%近くを占めるため、集合研修はできなくとも、各教科で連携した研修を継続していきたい。

（２）保護者や地域へのメッセージ

真面目に学校生活に取り組む生徒、保護者や地域の皆様のご理解とご協力、生徒の成長のために身を惜しまない教師によって、落ち着いた教育活動を進めることができます。学力も年々、向上しており、学力調査等の結果として表れています。

先の見えない時代を生きていく生徒たちにとって、自ら課題を見つけ、自ら解決していく力が不可欠だと考えます。そのために学び続ける姿勢や人間性の涵養、さらに主体性をもって生活する姿勢を身に付けさせるよう努力して参ります。保護者の皆様、地域の皆様の期待に応えられる学校づくりに力を尽くしますので、さらなるご理解とご協力をよろしくお願いいたします

（３）その他（学校教育活動全般について）

○落ち着いた学習環境の中で、指導熱心な教師とまじめに努力する生徒によって、基礎学力が定着し、学力が向上している。また授業中に考える場面、話し合う場面、発表する場面を設けることや自らの学びを調整しながら粘り強く学習する態度を身に付けさせることによって、新学習指導要領で求められている力をつけられるよう授業改善を進めている。

○ＩＣＴ機器を多くの教員が活用し、わかりやすい授業の工夫を行っている。

○特別支援学級を設置し、共に学校生活を送ることで、共生社会への理解を深めることができている。